

は じ め に

群馬県は、海拔13mの低地から2,500mを超える高山まで変化に富んだ地形を有し、また、尾瀬などの湿原や湖沼、流域面積日本一を誇る利根川をはじめとした豊富な水資源に恵まれるなど、良好な環境に育まれて多種多様な生態系が形成されてきました。

一方で、産業や経済の急激な発展は人間の生活環境に変化をもたらし、自然環境にも大きな影響を与えました。本県においても、開発や乱獲による種の減少・絶滅、里地里山などの手入れ不足による自然の質の変化、近年では、外来生物の侵入やシカの食害などによる生態系の攪乱といった問題が発生しています。

このような状況の中、県では、2014年に「群馬県希少野生動植物の種の保護に関する条例」を制定し、希少野生動植物種の保護対策に取り組むとともに、2017年には「生物多様性ぐんま戦略」を策定し、生物多様性を保全しつつ、県民の理解を深めて持続可能な形での利用を進めるための取組を行っています。また、2022年には、より現況に即した希少野生動植物種の保護対策を図るため、「レッドデータブック2022年改訂版」を発刊し、ここで明らかになった新たな情報や知見を基に、2023年には「群馬県希少野生動植物の種の保護に関する条例」で指定する特定県内希少種の見直しを行うなど、更なる保護対策を進めています。

国際社会においても近年、生物多様性の損失を食い止めるための議論が活発に行われています。2022年12月に開催された国連生物多様性条約第15回締結国会議（COP15）では、生物多様性に関する2030年までの世界目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択されました。それに対応し、国では、2023年3月に「生物多様性国家戦略2023—2030 ～ネイチャーポジティブ実現に向けたロードマップ～」を策定し、2024年4月には「地域における生物の多様性の増進のための活動の促進等に関する法律」を公布しており、今後自然と共生する社会の実現に向けた動きがさらに加速化していくことが予想されます。

「良好な自然環境を有する地域学術調査」は、これまで受け継がれてきた自然環境を良好な状態で残し、後の世代に伝えるための施策の一つとして、地形・地質、植物、動物の学識経験者で構成される「群馬県自然環境調査研究会」への委託により実施しており、40年以上にわたり、本県の自然環境の実態解明を続けてきました。

本書は、2023年度に実施した調査結果を取りまとめた報告書であり、群馬県自然環境保全地域である「天丸山」、県立赤城公園内の「覚満淵湿原及び山頂カルデラ内」など全8地域の調査結果を掲載しています。

この調査結果が、希少野生動植物種の保護対策のための基礎資料として、行政機関のみならず、県民の皆様に広く活用されることで、本県の自然環境保全の一助となれば幸いです。

最後に、調査・執筆にあられた群馬県自然環境調査研究会の皆様に深く感謝申し上げるとともに、調査の援助をいただきましたサポート隊の皆様をはじめ、御協力いただいた関係各位に厚くお礼を申し上げます。

2024年10月

群馬県環境森林部自然環境課長 臼田 栄慈

目 次

1 浅間山北麓地域〔1年目〕	1
2 天丸山県自然環境保全地域.....	31
3 反下川源流.....	81
4 白砂山・上ノ倉山周辺（ぐんま県境トレイル、野反湖～三坂峠） 〔補完調査〕.....	93
5 覚満淵湿原及び山頂カルデラ内〔2年目〕	99
6 群馬県立榛名公園沼ノ原草刈実験〔1年目〕	181
7 希少動物モニタリング.....	187
8 シカの生息状況が哺乳類相に与える影響調査（6年目）	191
群馬県自然環境調査研究会会員名簿（令和5年4月8日現在）.....	199